

ウッディチキン／長野例会

「例会レポート 116」

日 程	2016年9月14日(水)
会 場	『松本理容会館』 〒390-0811 長野県松本市中央1丁目21-3
参加者数	約61名（内県外17名）
講演会内容	PM19:00~21:00 ・ウッディチキン長野代表 ザック 江原さん挨拶 ・ウッディチキン伊藤豊代表の話 講演「プレイヤーズファースト」 広島県立安芸南高等学校教員 畑 喜美夫 様
親睦会	PM21:30~



ウッディキチン事務局

文章・写真提供／向井 健介

大河ドラマで、注目を集めている信州松本に 60 名の仲間が集まりました！
雨続きの中、奇跡的に青空が広がり信州の秋を感じました。

司会は、シャンゼリゼ美容室 波多野さんと津端さんの 2 名でとても上品な感じで
テンポよく進めてくれました。

伊藤代表の挨拶

熊本地震の経過報告とフィリピンボランティアの報告をしていただきました。
とにかく、アエタ族のブライダルプロジェクトは 10 年続ける。
フィリピンで 1 番素敵なブライダルにする！

長野ウッディ代表 ザック 江原さんの挨拶

今回で 4 回目になりました。皆さんのおかげです。
少しずつですが、本を読んだりみんなで共有できてきています。
今日は、その成果として読書発表を 2 名からしてもらいます。

寺子屋 課題図書 「君に成功を贈る」中村天風

- ① プレミアムヘアーハレ（上田） 依田 加菜恵さん
- ② シャンゼリゼ美容室（松本） 降旗 里恵さん

講演「プレイヤーズファースト」

広島県立安芸南高等学校教員 畑 喜美夫さん

すごい！と思いました。とにかくこんな先生に出逢えた生徒たちはいいなと
すごく深い内容、1 時間 30 分では伝えきれない内容を一生懸命伝えていただきました。
なかなかレポートでは伝えきれないのでぜひ本を読んでみてください。
あと YouTube でも、一部見れると思います。

一部紹介します！

ボトムアップ理論の下地はどのようにして出来たのでしょうか？

僕が広島観音高校に行って、7 年目くらいから県の代表になりまして、メディアで取り上げられた時に、『ボトムアップ』という表現がそういったところから出来てきたんですよ。それまでは『選手主導』『プレイヤーズファースト』という言葉で、選手が第一なんだよという考えのもとで話す先生が、小中学校の指導とか学級指導も含めて多かったですね。小中というのは感受性が高いので、そういったところで感じたものを実際問題、高校の教員として生かしていきました。

でも実際にやり始めたのは 1997 年から観音に行ってからですね。それまでは 8 年間、廿日市西高校にいて、その時にサッカー部ではなく大河フットボールクラブを見させてもらいました。そこで浜本（敏勝）先生の後ろ姿を見させてもらって勉強させていただきました。まだ木村（啓一）先生が入ってないころですね。そこで 8 年のうち 6 年間、監督をさせていただいて、中部代表で全国に行って。そういう経験を指導者になった時に振り返ったりして、観音に

行って始めたのがボトムアップ理論です。要は練習を週3回にしたり、色々な物事を選手で構築して行って、少しずつ少しずつ取り入れた形が1年目でした。練習がぐっと減ったのに成果が出てくることで、選手たちは感じている部分がありましたね。練習メニューがボンッと減って、これまで以上に考える時間を作ったことで、2年目には県で3位、中国大会に出てすぐ初出場3位になったり、一つ成果が出てくると選手たちが乗っかってくるみたいなのがありました。

部室の感じや荷物の整理整頓の様子、合宿中の生活態度なども、すごく気持ちがいいものですよ。

これはまだやられてない学校がいたら、もっと良くなると思うんですよ。我々のような公立高校がスポーツ推薦のある強豪校に少しでも近づくためには、色んな角度から取り入れていかないと駄目なので。いい選手をとることができるのならそれほど簡単なことはなくて、選手のとり方だけ考えればいいんですよ。でも、そうではない小学校、中学校、県立高校は選手育成の面から考えなければいけないし、子供たちが元々持っている能力を最大限に引き出すことが大事なんです。だから物を整理することは、ピッチの中に立った時に平常心でプレーしたり、的確な状況判断のもとでプレーするためには必要なことなんですよ。

特に整理整頓は準備だと思っているんです。これから活躍するためにいい準備をしていく。心を整理して整えながらピッチに立つという意味ではスタートの部室というのはすごく大事ですよ。「24時間をサッカー選手としてデザインする」という言葉をノートにも書いているのですが、家を出る時から自分の布団を上げて、ちゃんと靴を整えてから学校に行く、まずはそこからサッカーは始まっているんだよ、ということをお話していますね。人間教育という考え方を指導者が持てるのであれば、勝つ勝率が上がってくるんじゃないかなと思います。荷物の整理もこれをやれば勝てるというものではなくて、勝つ勝率が1%でもあれば、それを取り組んでいこうじゃないかという意味で行っていることなんですよ。

具体的にはいつ頃から始められていたんですか？

今みたいにしっかりした形ではないですが、物を整理したり、部室をキレイに使うことはもう観音に入ってからやっていたね。浜本先生自身が食事の片付けなど自分のことはすべて率先してやる方だったので、指導者が背中を見せていく姿勢だったり、「神は細部に宿る」「神様はキレイ好きなんだよ」といった言葉も挟んで伝えていく、そういったこだわりを間近で見られたのも大きいです。

そういった習慣が付くと、日頃からラインを整えることにもつながるので、選手間のパスミスやポジションミスも減ってくるんですよ。サッカーでは技術・戦術・体力を鍛えるピッチベースの練習が一般的です

が、ピッチ外のコンディショニングや運、フェアプレー、モチベーションといった部分が案外置き去りにされているんですよ。そういった「形の見えないものを見る力」が僕はインテリジェンスだと思っているんです。形で見えるものを、もっと10倍にも20倍にも力を発揮させるためには、ここのベースがすごく大事になってくるんですよ。例えばソチオリンピックでも、結局今まで頑張ってきたけど、結果を出したら終わりですよ。そのことを指導



者がわかってトレーニングをやっているかどうか、それによって全体像がすごく良くなってくる。すべてを見ながらというのは大事なところかなと思うんですよね。だから広島観音高校時代にジャパンライムで作った一作目のDVDは、色んなことをやるんだけど、ミーティングだったり、脈拍トレーニングだったり、目に見えないようなものを見るようなやり方を取り入れさせてもらいました。ボトムアップ理論については、これが一番わかりやすく作られた作品だと思います。

選手たちの可能性を引き出す 『教えない指導』の重要性

自分の指導法や指導理念をしっかりと持っている先生が多いと思いますが、ボトムアップの利点を頭では理解出来ていても、今までやってきた指導法を変えるのはなかなか勇気がいることだと思います。

技術・戦術・体力をボトムに引っかけていきながら、僕らがこうだなと思って伝えていることを、自分たちで話し合いながら選手たちの中から出てくると一番いいですよね。僕らもライセンスを持っているので、例え日本代表で教えるくらいのライセンスがあったとしても、結局それは選手たちが話したら出ることなのか出ないことなのか。我々指導者はついつい「こうやったら上手くいくよ」と伝えてしまいがちなんですが、子供たちに考えさせるということが大事なんです。例えば、パッシングワークが上手くいかなかったら、じゃあどうすればいいか考えてみようよ、という風に落とし込んでいく。子供が考えて出てくるの？と先入観で考えがちですが、ボトムというのは、下から小グループを作りながら、いろんな意見を取り上げていきながら、方向性を煮詰めていくというやり方なので、そうなってくると小学校、中学校、高校とアイデアとしてはいいものが出るんですよね。そこに先生方が味付けをしてあげた方がいい練習もありますね。子供たちが決めた中で味付けをしていく。だからそういった意味では、ボトムアップ理論の中でも「子供たちに考えさせる」ということが一番のキーポイントなのかなと思いますね。どんどん出来るようになりますから。

今はいいゲームを観る機会も多く、子供たちなりにこういうサッカーがやりたいとか、そうするためにはどうすればいいのかなど、考える素地が以前よりも出来てきているように感じますね。

例えば技術ベースでも戦術ベースでも、僕らが言ったら子供たちというのは考えずに言われたことをやろうとするんですよね。逆に僕は『教えない指導』と言うんですが、教えないければ何をするかというと、自分で本やDVDを買ったり、テレビを観たりして、いいものを学ぼうとするんですよね。そういうところを逆に教えないぶん、自分たちで何とかしなきゃいけないと色んなものを見るようになりました。「それどこから取り入れたの？」と聞くと、「バルサ（FCバルセロナ）の練習を見るといっぱい出てきますよ」と言うくらい（笑）、選手自ら研究するようになりました



たね。僕らが教えていることは日本サッカー協会からの落としの中でやっているの、それが正しいのか正しくないのかわからないとしても、子供たちからも同じように色々なものが出てきているので、そういうものの中からトレーニングに加えたり、そこから僕らがどういうテーマなの？もっとどうしたらいいと思う？と詰めていくやり方の方が子供たちもやりやすいのかなと思いますね。

もちろん一年間の中でベースを考えて、ある期間は先生が考えた練習でもいいと思うんです。長いスタンスの中で、子供たち自身で考える場面と、指導者の考える技術論・戦術論を伝えて、また子供たちに考えさせる場面上手く組み合わせる方が理にかなっているかなと思います。僕もトップダウン的に入れている期間があります。でも決して同じことはやらない。あまり子供たちには有効じゃないですし、子供たちが監督とは違う意見だった時に「はい」や「いいえ」が言えない環境になってくると、体罰や暴力にもつながっていく危険性がありますから。監督と選手が意見を交換し合える点もボトムアップのいいところじゃないかなと思います。決して今まで経験したこととか、ライセンスなどで取り入れたことを伝えないわけではなくて、それを上手く使いながら子供たちに考えさせるほうが全体的なレベルが上がってくるのかなと思いますね。この学校でも同じことをやっています。

先生も一からの指導だったと思いますが、初めはある程度「こういうことをするんだよ」と選手たちに話してからやらせた形なのでしょうか？

僕はまずはやらせてみましたね。一番最初から取り入れる方は、軸を作ってあげた方がいいですね。僕の場合は、観音でこうなったらこう動くだろうなという自分なりのイメージが出来たので、まず自由に「攻撃はどうするの？」

「守備はどうするの？」と自分たちで考えさせることが大事ですね。そうすると攻撃はパッシングしたいんだとか、守備は前から取りたいんだとか、生徒の考えが見えてくるので、それを整理させて、まずは自分たちが出来るようなことを軸にしてやっていくのがいいと思います。そして、練習試合を色々やっていく中で、勝てなかったら動きが足りないとか、プレッシャーが足りないとか、何回か経験していくことで何が足りないのかがまた見えてくる。じゃあ、どういうチームを参考にしたらいいのかを考えるわけですね。

子供たちがやっているところからアドバイスで物事を作っていくでしだしたのが、今いる安芸南高校からなんです。部室をキレイにするのも、まずはやらせることから。僕はかならず部室を回ってからグラウンドに行くんですね。そうすると整理されてきますし、勝った時に「やっぱり部室がキレイだとサッカーはいいね」と言うと、もっともっと良くなるんですよ。ここの学校でも広島観音高校に練習に行ったりするのですが、見て感じさせることが大事で、それは取り入れてやっていますね。皆さんにもDVDを見て、まず物事をまねることから始めてほしいと思います。それを続けることで、なぜ荷物をキレイにすることがサッカーに生きてくるのか、子供たちがわかりだしてくると結果もついてくるし、人間力もついてくるんですよ。そういう風になってくれればいいのかなと思いますね。

だから結果が出るから皆さん始めていきましょうというより、DVDを見てそこを軸として動いていったり、変えていった方が、僕は今の流れとしてはいいのかなと思います。僕は一番最初からやりましたけど、誰かが最初にやって、電化製品と一緒に、例えばSONYが出せばそこを目指してもっといい製品が出てくる。そういう意味では切り込み隊長のような感じですね。ボトムアップ理論がうまく皆さんの最初のパートの形になるようなものになっていけばいいなと思っています」

ほんの一部です。機会があればまたじっくり聞きたいと思います。

もっともっと進化しないといけないと感じた講演でした。ありがとうございます。

この後懇親会にも、畑先生は最後までお付き合いいただきました。

やはり、ずっと熱く語っていました。写真を撮るのを忘れてました。(泣)すみません。

かわりにとは何ですが、翌日ザックの江原さんに上田周辺を案内していただきました。真田丸にはまっている自分には、たまらなかったです。しかも、車の中のBGMは、真田丸のサウンドトラック・・







真田昌幸氏のお墓参りもしてきました。合掌

以上です。

次回は、東京でお会いしましょう！

むかいけんすけ